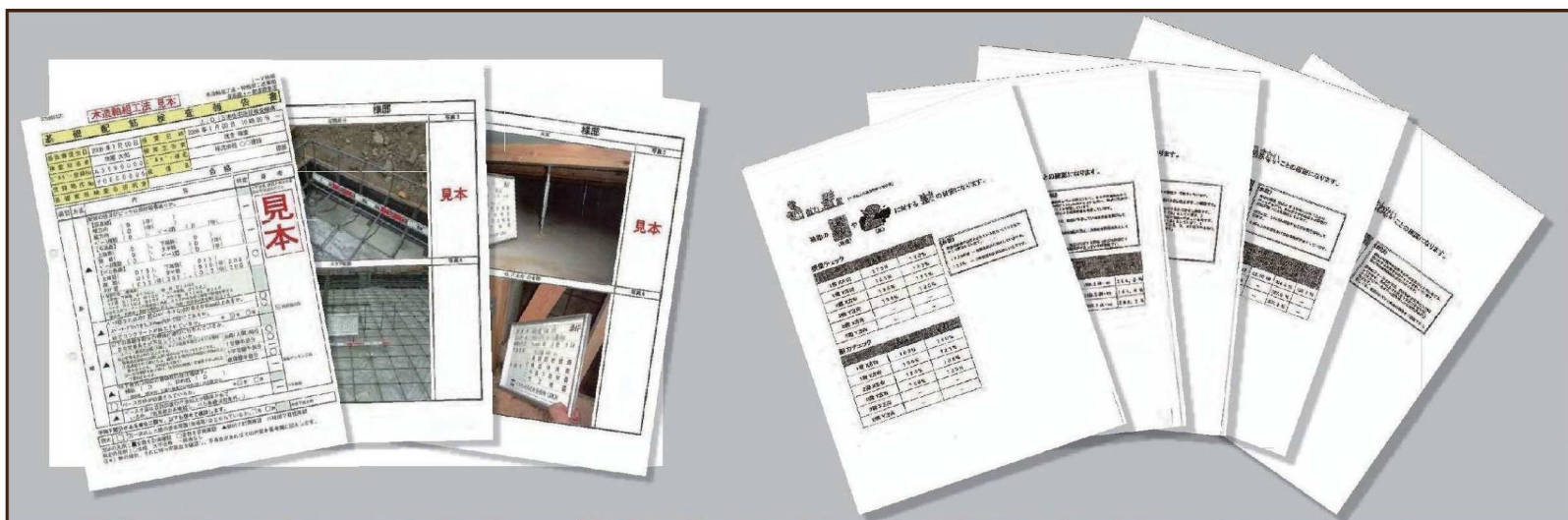




ノルデンハウスの家づくりは、信頼できる家を提供します。

すべての建物に「許容応力度構造チェックリスト」をお付けいたします。



木造2階建ての建築物には、構造計算書は義務付けられていません。

しかしノルデンハウスでは、すべての家に「構造計算書」をお付けします。見えない部分にこそしっかりと材料と品質管理が大切と考えているため、営業マンの言葉だけでなく、数値を見て耐震性を判断してください。創業一棟目から全ての建物にお付けしている、私たちの信念です。

『信頼できる家』こそが『資産価値の残る家』になります。

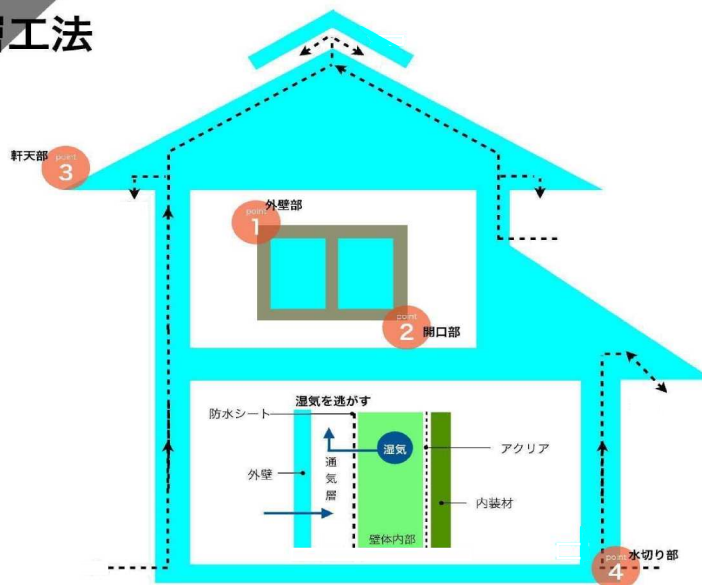
◆構造

木造軸組工法（在来工法）

日本の住宅では、最も一般的で伝統的な建築工法で、間取りの自由度が高く、日本の気候にも柔軟に対応している工法です。通し柱や管柱、梁等で建物の形を形成し、筋交を柱と柱の間に設ける事で、地震や風圧に耐えるように考えられています。当社では壁の剛性を高める為、外部をノボパンで覆い、更なる住宅の強さを追求します。



通気層工法



●パーティクルボード

「国土交通大臣認定」を取得のした9mm厚パーティクルボードの構造用耐力面材。

-  **せん断強度が高い**
-  **地球に優しいエコ商品**
-  **雨漏れに強い**
-  **2種類の壁倍率**
-  **非ホルムアルデヒド系接着剤使用**




現代の家造りでは柱と強い壁を組み合わせて家全体を支えます。柱と柱の間にノボパンをはめ込む事で耐震強度が増し、地震に耐えられる家造りを造ります。

 novopan 日本ノボパン工業株式会社

●接合金物

「改正建築基準法」に適合した高耐震性金物を使用しています。



 株式会社 タナカ



安心で丈夫な住まい！

◆基礎

地盤調査

スウェーデン式サウンディング試験



スウェーデン式サウンディング試験は、北欧のスウェーデン国有鉄道が1917年頃に不良路盤の実態調査として採用し、その後スカンジナビア諸国で広く普及した調査を、1954年頃建設省が堤防の地盤調査として始めました。

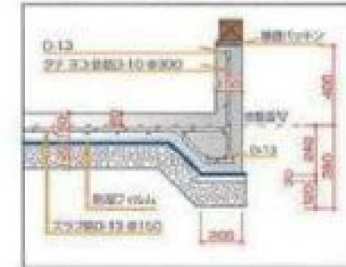
地盤改良

鋼管杭打設工法の場合



地盤調査の結果により地盤改良工が必要な場合があります。鋼管杭打設工法とは住宅の荷重を杭を介して強固な地盤に伝えることにより支持力確保及び沈下の抑制を図る工法です。軟弱地盤層が厚く、また柱状改良工法では改良不可能な深さに強固な地盤がある場合にこの工法が用いられます。改良の工法は他にもあります。

基礎断面図



鉄筋コンクリートベタ基礎工法を標準としてスラブ防湿シートとコンクリートを敷き詰め構造の耐久性向上を図っています。

配筋



スラブ配筋の鉄筋はD13で200ピッチ
立ち上がり配筋はD13及びD10で200ピッチ
スラブ下全面に防湿シートを敷き込みます。

ベタ基礎工法



ベタ基礎工法により地盤と基礎が一体化し、従来の布基礎に比べ安定感に優れています。建物自重・積載荷重を分配し、均一に受ける構造なので地盤への負荷を軽減します。

基礎パッキン・鋼製束



在来工法の基礎内部の通気は、基礎パッキンと呼ばれる強化プラスチックを、基礎と土台の間に挟み自然換気を取り入れ湿気対策を行います。また、鋼鉄製束は強固で耐久性に優れています。